

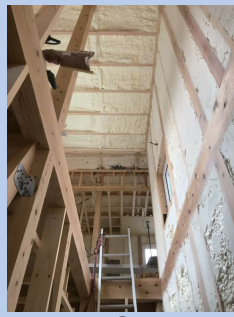
duomo…イタリア語で町一番の教会という意味です。弊社がお客様や地域の人たちから親しまれ必要とされ町一番の会社になれるようにとの願いを込めてこの名前に決めました。

お彼岸を過ぎると急に涼しくなって、朝晩は少し肌寒いくらいです。地球温暖化の時代でも昔の諺はまだまだ生きていますね。でも、今年はお彼岸に彼岸花が咲いていませんでした。これまでは、どんなに暑くても毎年、お彼岸には顔を見出していたように思っていました。今年、ほとんど咲いていませんでした。後でニュースでも言っていました、1週間ほど遅れて咲いたようです。こんなことがこれからは、たくさん起きるんでしょうねえ。(～～)

快適な住まいのための三要素・・・断熱、気密、換気



①



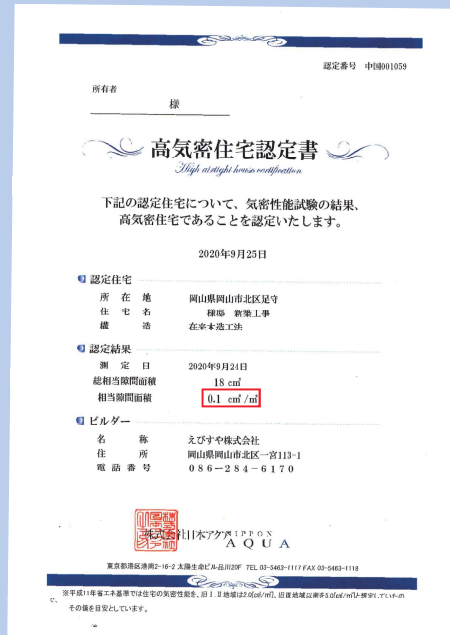
③



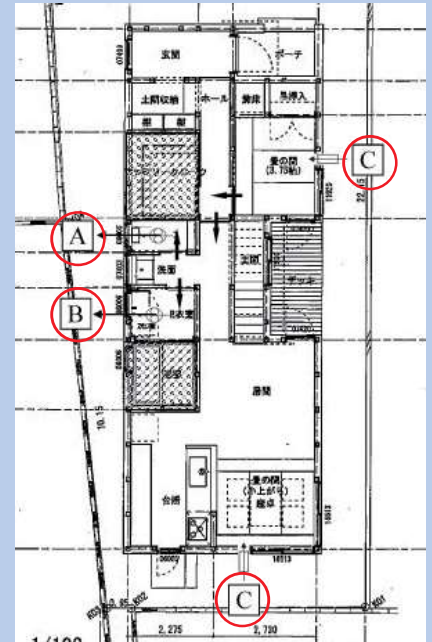
②



④



⑤



⑥

上の写真は現在足守で建築中の新築現場の写真です。

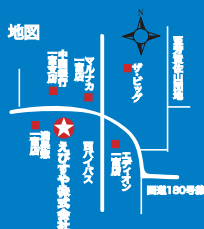
快適な住まいを作るためのポイントの一つ目は断熱です。①の写真は、外壁の部分に水色の防水塗料を塗ったところ。この上から写真②のように断熱材を貼っていきます。内側には、③の写真のように吹付ウレタンフォームをほぼ柱の厚み分くらい施工しています。内外合わせて、約150mmの断熱材で家をぐるっと覆ってしまいます。

二つ目は、気密です。気密性を高めるといって、何となく、息が詰まる感じを受ける方もいらっしゃると思いますが、快適な住まいを作るためにはとても大事な要素です。気密性を高める意味は、冬は隙間から、寒い風が入ってきたり、せっかく温めた室内の空気が出て行ってしまったり、夏はその反対で、暑い空気が入ってきたり、冷たくした空気が出て行ってしまったりを防ぐためということももちろんあります。いくら断熱をしても隙間風ぴゅーぴゅーでは効果がなくなりますからね。でも、気密を高めることには、もう一つ大事な意味があります。

それは、三つ目の要素の換気と関連してきます。建築基準法では、住宅の場合24時間に0.5回以上部屋の空気が換わるように定められています。家全体の空気が換わるように図⑥のように換気計画をつくって換気扇の位置や、風量、外部から空気を取り入れる吸気口の位置を決めます。でも気密が悪い家だと、計画したところとは別のところから空気が入ってきたりするので計画通りに換気ができずに空気が澱む所ができてしまいます。気密性の高い家では、他から空気が入ることなく、計画通りに空気が入れ替わります。気密が高いと息が詰まるというのは間違いで、きちんと換気をすれば気密性の高い家のほうが空気がきれいなんです。

写真④はその気密がどれくらいとれているかを測っています。

気密度を測る物差しは相当隙間面積C値で表します。床面積1㎡あたりにどれくらいの隙間があるかを表します。国の基準ではC値2 cm²/m²以下を高気密住宅としています。この現場では、⑥の認定書に書かれているようにC値0.1 cm²/m²です。まさに超高気密住宅ですね。これなら、隙間風も入らずに、計画通りに換気できますよね。(^^)/



ご連絡先



086-284-6170

えびすや建築工房

TEL. 086-284-6170 E-mail. info@ebisuya-net.co.jp

FAX. 086-284-6175

こちらから無断でお伺いすることはございません。

えびすや 株式会社 〒701-1211 岡山市北区一宮113-1